

# 障害をもつ子を産み・育てることに対する イメージの生成（第1報）

—S県東部K地区における住民調査報告—

田中 円火\*・八藤後 忠夫\*\*

## A Report of the Investigation into the Actual Conditions Concerning the Image to Birth and Child Care of Children with a Disability

Madoka Tanaka, Tadao Yatougo

### I 住民調査の目的

近年における少子化の増加傾向は、超高齢化社会への突入と相俟って生産年齢人口の減少問題として注目されていることは周知のことである。さらに「乳幼児虐待」等に象徴されるように、育児（子育て）の困難さもまた急増している傾向にあり、このことは少子化問題のひとつの背景要因となっているとも考えられよう。本調査では育児以前の問題としての出産ならびに、特に障害をもつ子を産み・育てることに関して女性がどのようなイメージを抱いているのかという点に着目し、主に「障害児・者観」「子育て観」「家族像」「障害児・者との接触体験」「出産に関する知識や情報」との関連でその困難性や生き甲斐等の実態を“イメージ”を通じて把握することを目的とする（図1）。本稿では第1報として実態調査の単純集計結果ならびに基礎統計学的手法による各項目間の関連において示唆された部分のみを報告する。

### II 対象と方法

#### 1 対象

子どもを産み・育てることに関して最も関心があると思われるのは、結婚、妊娠、出産、子育てを経験するであろう女性、もしくは経験した女性であると考え。しかし、10代女性は結婚や出産等に対して時間的に遠い位置にある。また、50代以上の女性は出産や子育て等が遠い過去のこととなり、信頼できる回答を期待するのが難しいと考える。よってS県M地区を中心とし

\* たなか まどか ユニマツ不動産・SPA & エステ事業部

\*\* やとうご ただお 文教大学教育学部

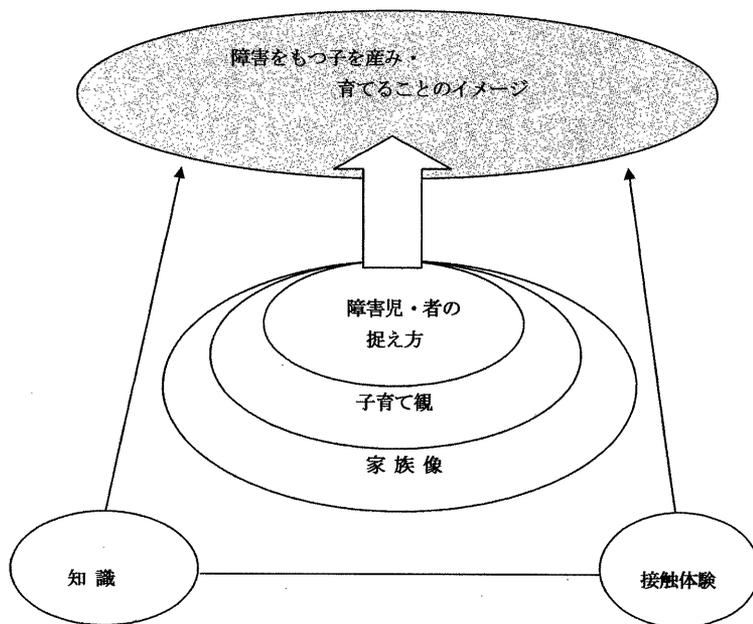


図1 調査の枠組

た関東南部に居住する、20歳から50歳までの女性を調査対象とした。

## 2 調査方法

調査には無記名の質問紙法を用いた。調査票の配布は2004年12月17日(金)～19日(日)の3日間、文教大学教育学部特殊教育専修の3年生3名、2年生3名に協力を得た。各家庭に一軒一軒、直接説明し、20歳から50歳の女性がいることを確認したのち、回答を依頼した。また、留守の場合は調査対象となる年代の女性がいる、いないに関わらず、調査協力の依頼文とともに調査用紙を郵便受けに投函した。有効回答数は125名であった。なお今回の実態調査報告では、51歳以上の女性のデータを含め、合計148人を集計の対象としている。また、調査用紙を配布した留守宅に、調査対象となる年代の女性がいるかどうかは確認ができないため、回収率は算出不可能である。なお、データの解析にあたってはSPSS.11.0J for Windowsソフトパッケージを使用した。

## 3 調査項目

調査票（添付略）の質問項目と内容は、以下のとおりである。なお、これらの項目は図1の調査の枠組みに対応している。

- ①理想の家族像（理想の家族・家庭のあり方、夫婦の協力について12項目）
- ②子育て観（育児書や情報の参考頻度、不安、夫婦の協力について7項目）
- ③障害児・者の捉え方（障害をもつ人に対して抱くイメージについて11項目）
- ④経験（障害をもった人との接触体験頻度、接触体験影響度、出生前診断経験）
- ⑤障害をもつ子を産み・育てることのイメージ（育てるにあたっての困難性イメージについて14項目、育てるにあたっての喜びや生きがいイメージについて4項目）

- ⑥知識（心身障害についての知識度15項目、出生前診断についての知識度7項目）
- ⑦その他（出生前診断希望、出生前診断の賛否）
- ⑧基本属性（年齢、職業、夫の年齢、夫の職業、結婚年数、同居人数、子どもの人数、子どもの年齢、障害をもった家族の有無、障害をもった家族の続柄）

#### 4 従属変数の設定について

本調査における『障害をもつ子を産み・育てることのイメージ』とは、以下に示すように、障害をもつ子を産み・育てることに対しての『困難性イメージ』と、『喜び・生きがいイメージ』の2側面を意味する。『困難性イメージ』の質問は14項目、『喜び・生きがいイメージ』の質問は4項目とした。

##### 『困難性イメージ』に関する質問14項目

①起床	②着替え	③洗面	④食事	⑤排泄	⑥移動	⑦入浴
⑧睡眠	⑨学習	⑩運動	⑪遊び	⑫就学	⑬就職	⑭人との関わり

##### 『喜び・生きがいイメージ』に関する質問4項目

①家族の絆が強くなる	②小さな成長に大きな喜びを感じる
③いつまでも「自分の子」という意識をもって育てられる	
④障害をもつ子と共に生るのも味のある人生だ	

### Ⅲ 単純集計結果

#### 1 対象者の基本属性

##### 1) 対象者の年齢分布

20-35歳	64人 (43.2)
36-50歳	61人 (41.2)
51歳以上	5人 (3.4)
無効回答	18人 (12.2)

##### 2) 対象者の職業

・家事専業	67人
・その他	67人
・無回答	14人

( ) は列に対する割合 (%) を示す

# 夫の年齢・職業・結婚年数同居人数・子どもの年齢・家族内の障害者人数は割愛した。

#### 2 各質問項目に対する回答分布

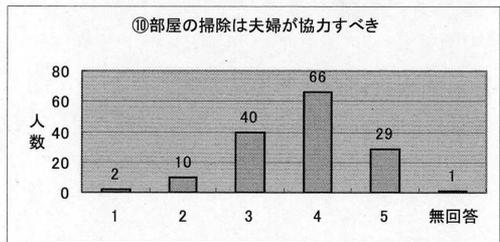
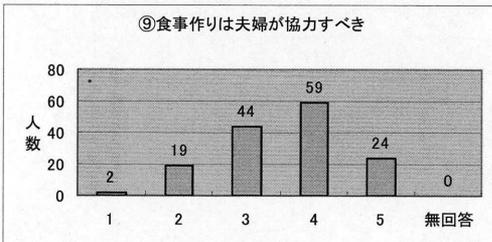
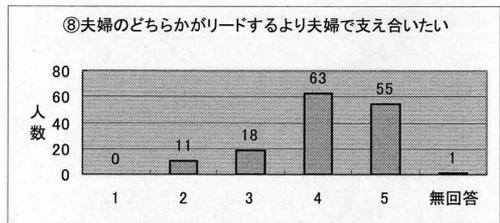
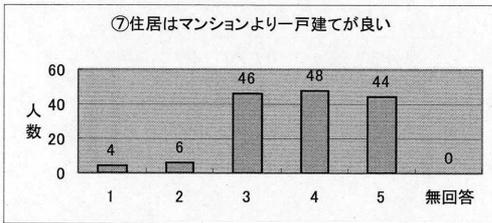
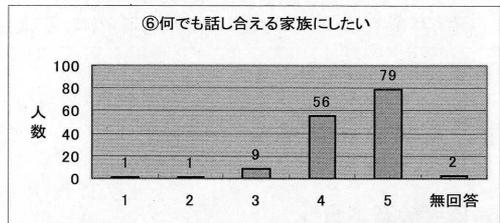
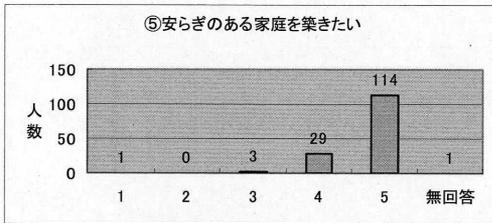
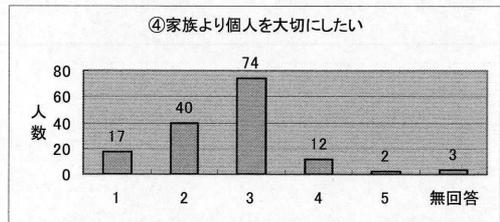
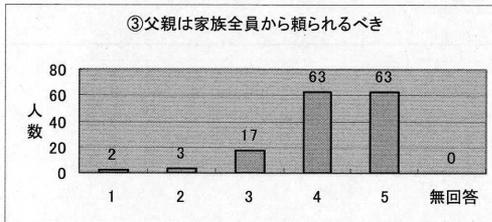
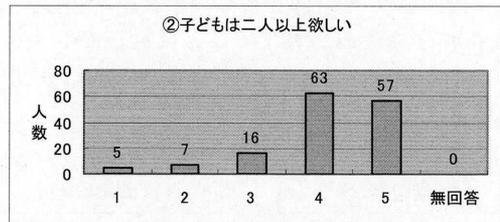
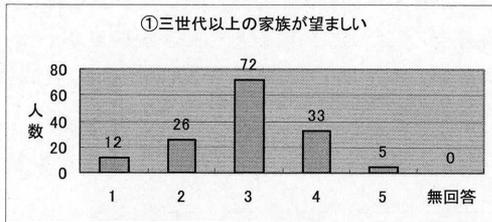
(項目によっては欠損値=無回答等が生じるため、若干これを下回る場合がある。したがって、表中には人数は示さない。)

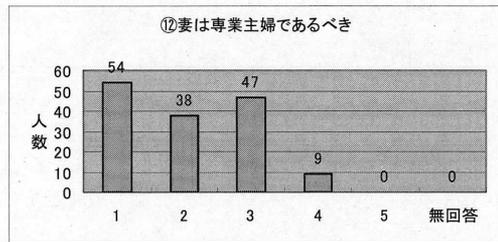
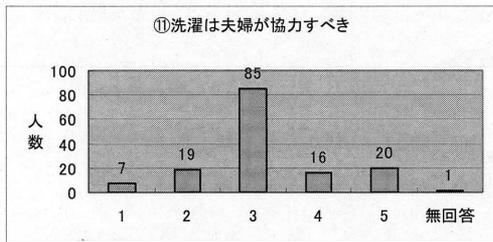
I. あなたの考える家族像、子育て観についてお聞きします。

Q1. あなたの理想の家族、理想の家庭についてお聞きします。

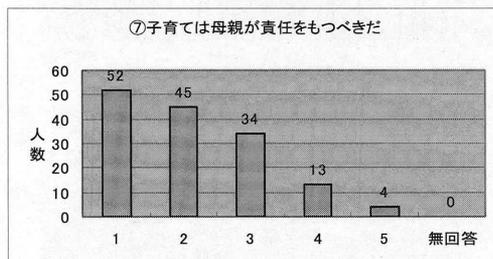
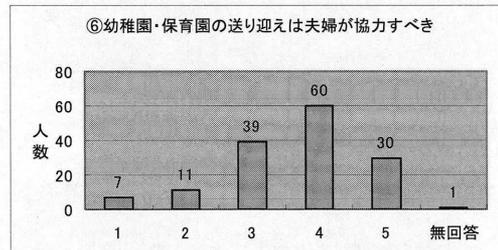
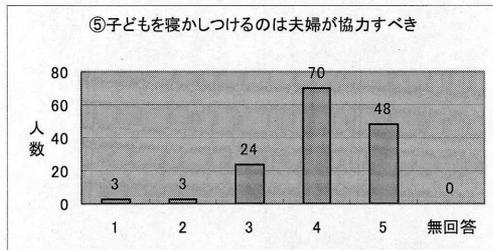
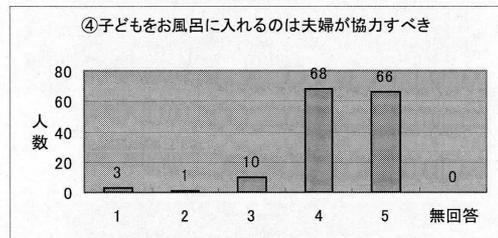
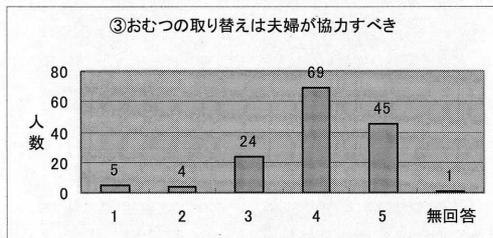
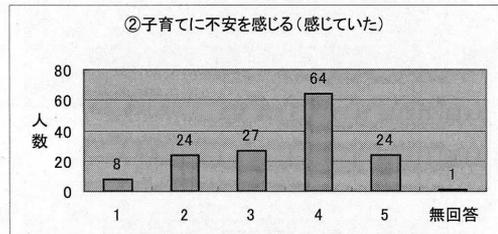
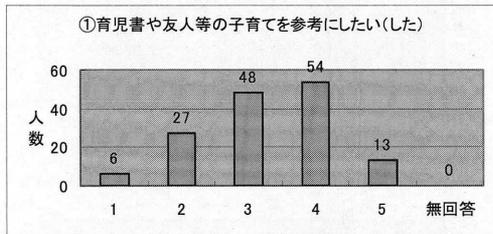
1. まったくそう思わない      2. どちらかと言えばそう思わない      3. どちらとも言えない  
4. どちらかと言えばそう思う      5. 非常にそう思う

n (全体人数) =148





Q2. あなたの考える子育てについてお聞きます。

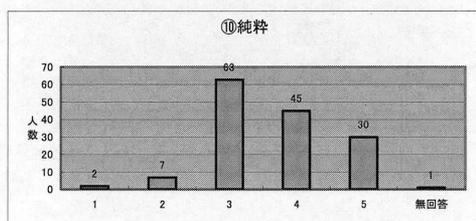
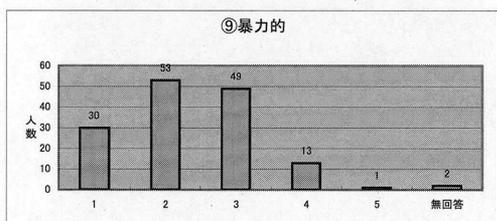
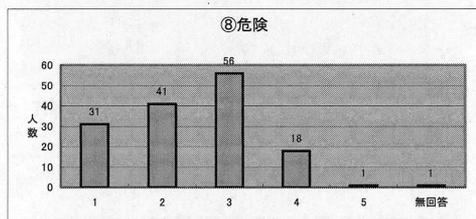
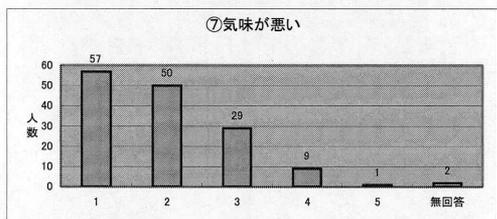
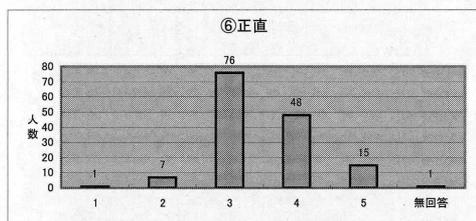
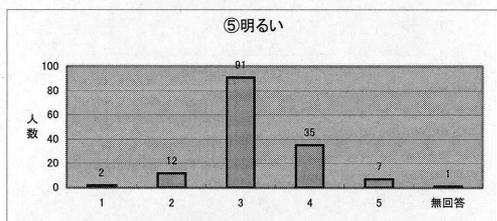
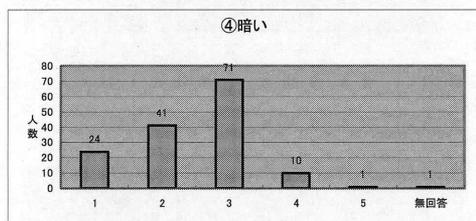
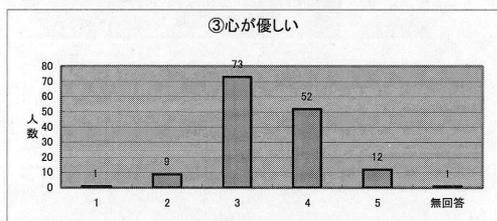
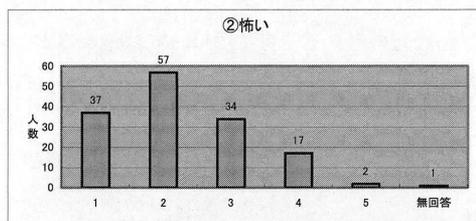
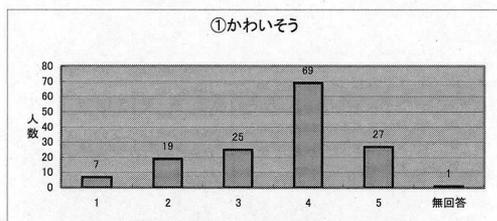


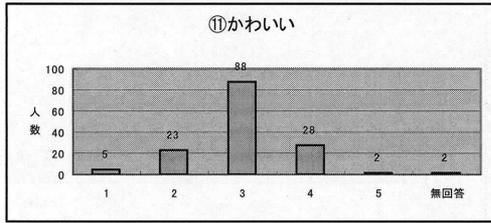
II. 次に障害をもつ人に対するイメージ、障害についての知識、障害をもつ人との関わりについてお聞きします。

Q3. 障害をもつ人のイメージについて、以下の項目についてお答えください。

1. まったくそう思わない      2. どちらかと言えばそう思わない      3. どちらとも言えない  
4. どちらかと言えばそう思う      5. 非常にそう思う

n (全体人数) = 148

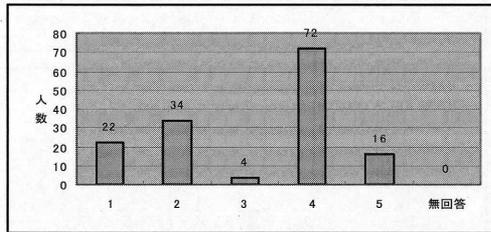




Q4. 障害をもった人との関わった経験がどの程度ありますか。

1. まったくない      2. どちらかと言えない      3. どちらとも言えない  
4. 少しはある      5. 大変多い

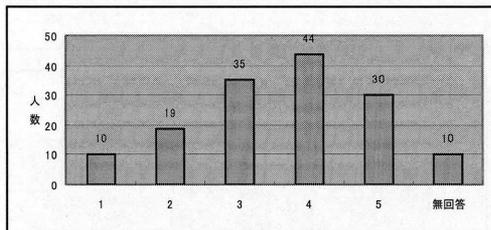
n (全体人数) = 148



Q5. Q4での経験は、障害をもつ人々に対する現在のあなたの考え方やイメージに、どのくらい影響していますか。

1. まったくしていない      2. どちらかと言えはしていない      3. どちらとも言えない  
4. どちらかと言えはしている      5. かなりしている

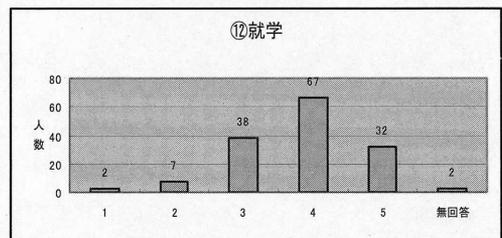
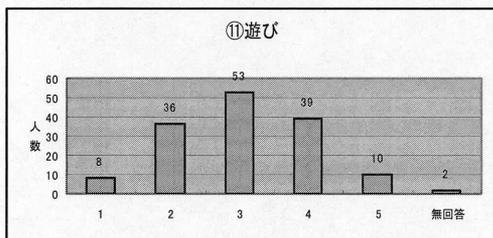
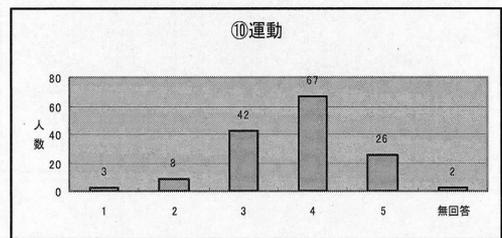
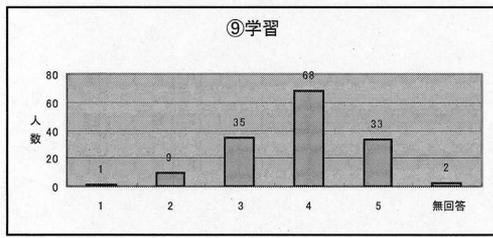
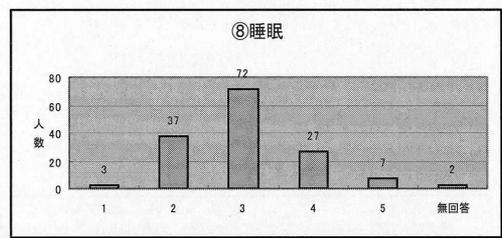
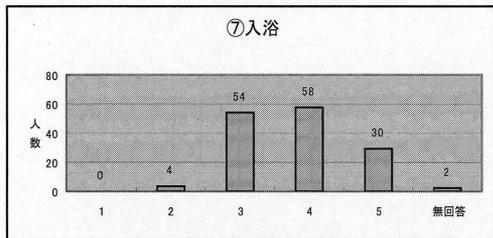
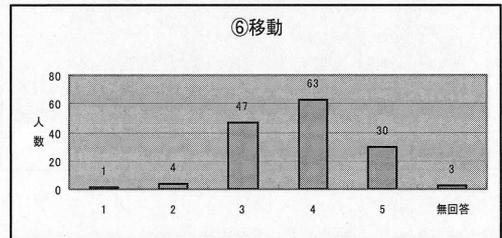
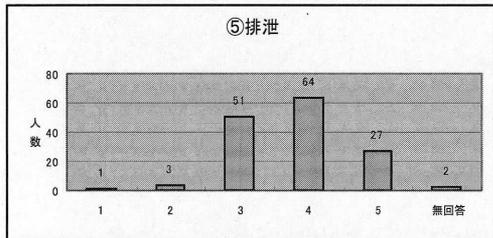
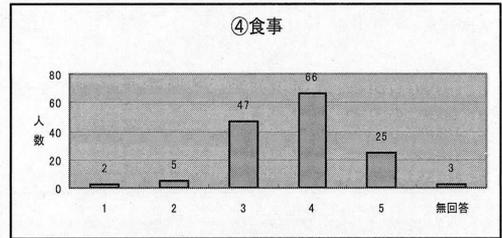
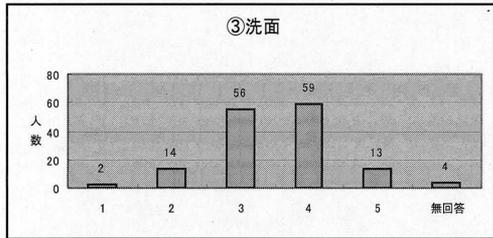
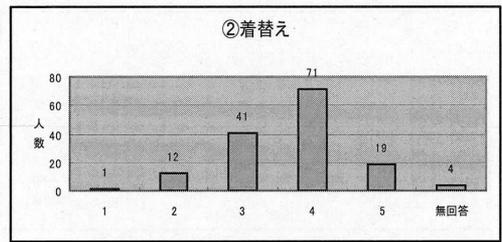
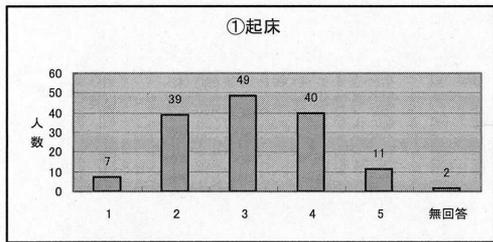
n (全体人数) = 148

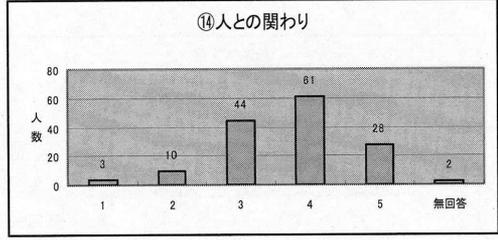
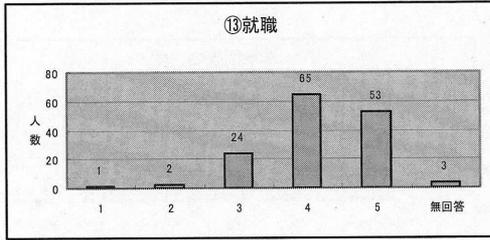


Q6. 障害をもつ子を育てることについて、困難性のイメージをお聞きます。

1. まったく困難でない      2. あまり困難でない      3. どちらとも言えない  
4. やや困難      5. 非常に困難

n (全体人数) = 148

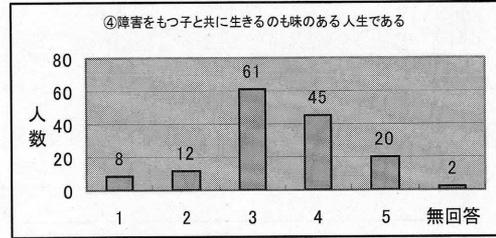
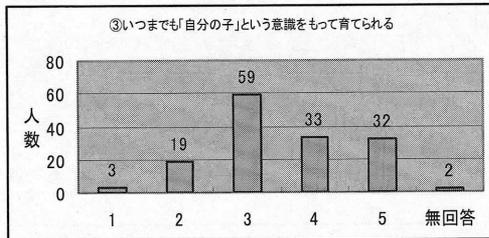
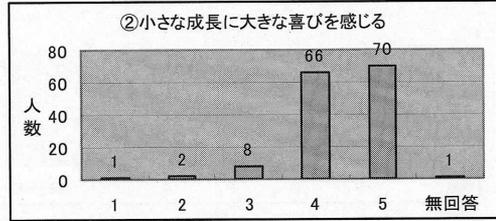
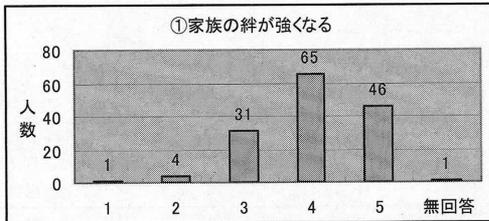




Q7. 障害をもつ子を育てることについて、生きがいやプラスイメージをお聞きます。

1. まったく思わない    2. あまりそう思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う    5. 非常にそう思う

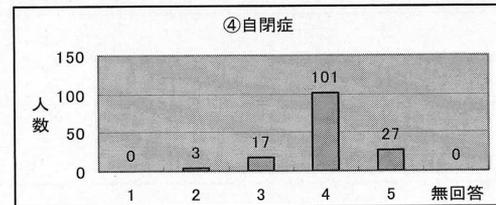
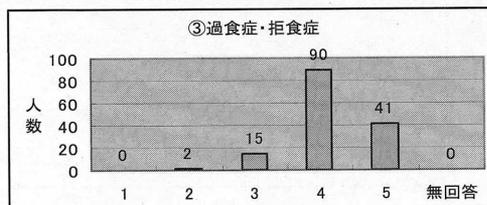
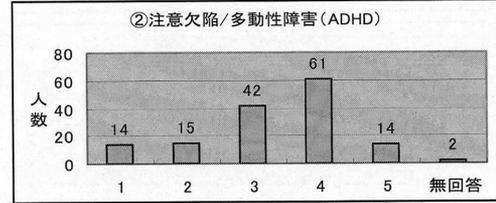
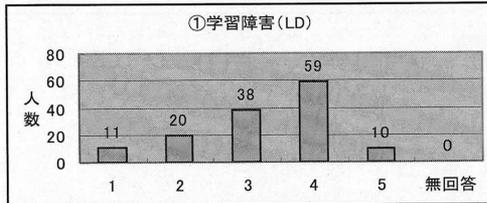
n (全体人数) = 148

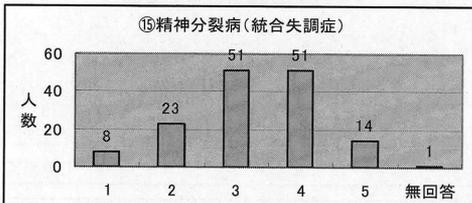
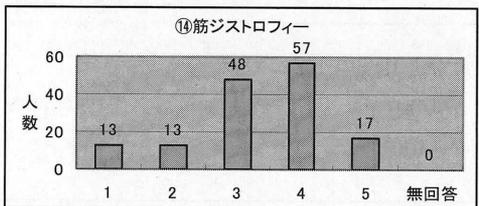
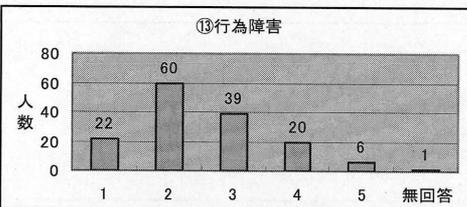
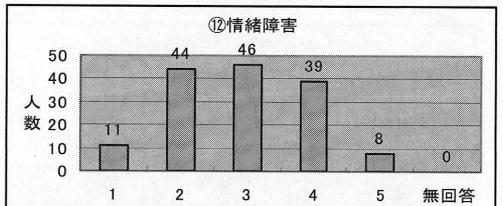
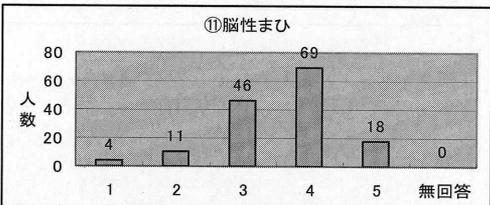
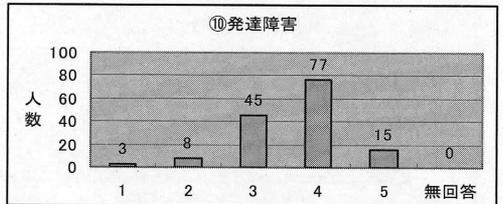
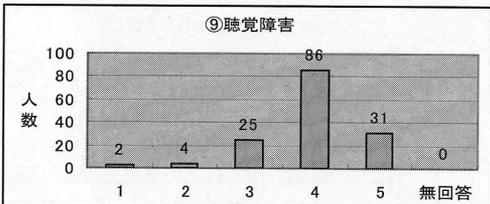
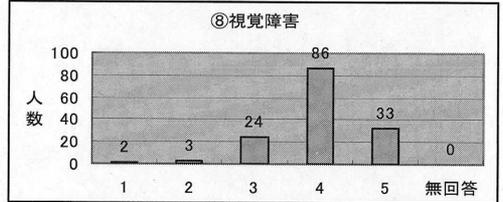
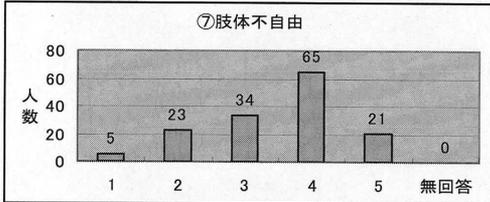
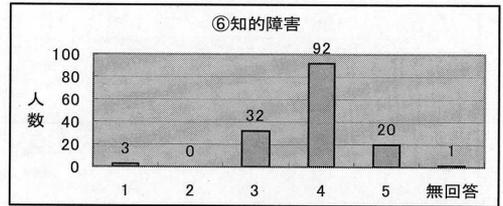
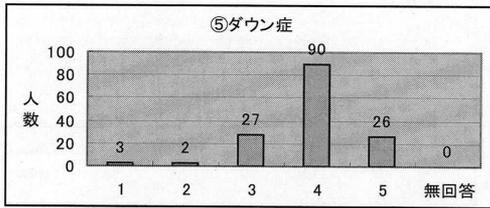


Q8. 以下の「からだ」や「こころ」の障害についてどのくらいご存知ですか。

1. まったく知らない    2. あまり知らない    3. 名前は聞いたことがある  
4. 少し知っている    5. よく知っている

n (全体人数) = 148



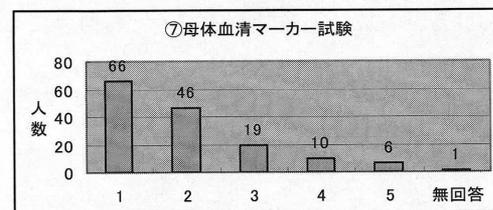
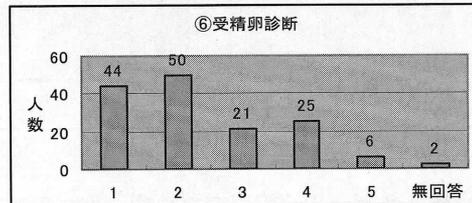
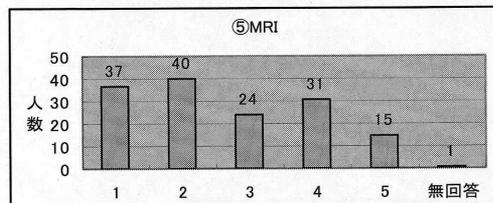
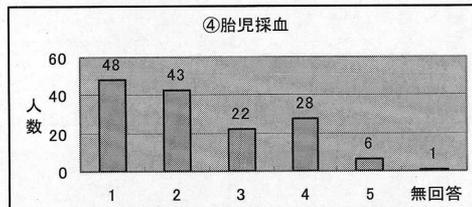
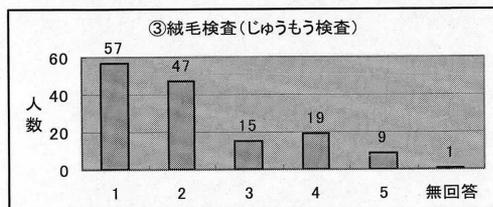
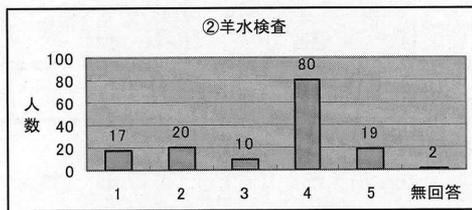
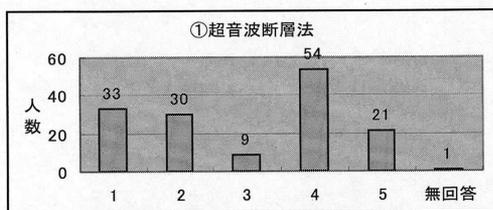


Ⅲ. さらにお聞きします。赤ちゃんがお腹の中にいる間に、赤ちゃんの障害の有無を調べる『出生前診断』というものがあります。

Q9. 以下に挙げる出生前診断の検査方法について、どのくらいご存知ですか。

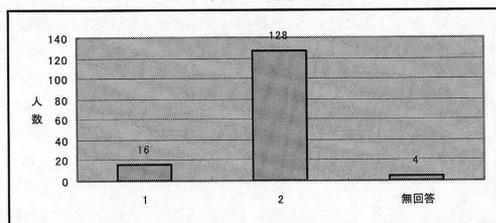
1. まったく知らない    2. どちらかと言えば知らない    3. どちらとも言えない  
4. 少しは知っている    5. よく知っている

n (全体人数) = 148



Q10. 出生前診断を受けたことがおありですか。

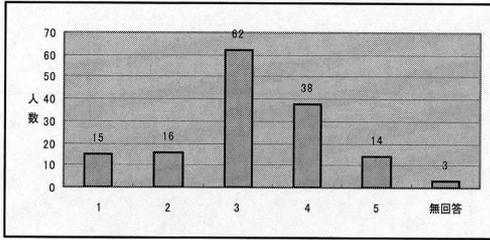
- (1. ある 2. ない)



Q10-2. あなたがもし妊娠した際には、出生前診断を受けてみたいと思いますか。

1. まったく思わない    2. どちらかと言えば思わない    3. どちらとも言えない  
4. どちらかと言えば思う    5. 大変思う

n (全体人数) = 148



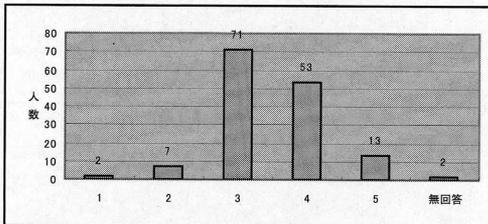
\* Q 1 1 - 1 2 は自由記述のため省略

Q13. 率直なところをお聞かせください。

出生前診断を実施することについて賛成ですか。反対ですか。

1. 非常に反対                      2. どちらかと言えば反対      3. どちらとも言えない  
4. どちらかと言えば賛成      5. 非常に賛成

n (全体人数) = 148



### 3 従属変数部分の相関分布ならびにそれらと各項目 (独立変数部分) の関連

ここでは、2の回答分布をもとに、イメージにおける、特に「困難性」的部分との関連においてのみ基礎統計学的に確認された傾向のみを記す。

1) 全体的には「困難性のイメージ」は、『家庭内での日常生活動作 (ADL)』、『戸外での活動』、『社会への参入・参加』の3領域に分布していることが確認された (表A)。

表A 困難性イメージに関する項目間の関連 (相関行列)

(全体)

	起床	着替え	洗面	食事	排泄	移動	入浴	睡眠	学習	運動	遊び	就学	就職	対人関係
・起床	1.000	.456***	.575***	.369***	.377***	.286***	.324***	.357***	.118ns	.176*	.312***	.097ns	.111ns	.182*
・着替え		1.000	.762***	.726***	.638***	.474***	.547***	.203*	.307***	.219**	.151ns	.254**	.311***	.249**
・洗面			1.000	.727***	.641***	.464***	.479***	.226**	.309***	.190*	.204**	.215**	.256**	.229**
・食事				1.000	.744***	.522***	.603***	.193*	.423***	.303***	.244**	.311***	.399***	.312***
・排泄					1.000	.614***	.740***	.238**	.346***	.271**	.208**	.370***	.470***	.319***
・移動						1.000	.637***	.238**	.402***	.327***	.251**	.361***	.384***	.358***
・入浴							1.000	.330***	.317***	.315***	.298***	.310***	.410***	.305***
・睡眠								1.000	.206**	.218**	.441***	.239**	.195*	.238***
・学習									1.000	.583***	.392***	.533***	.572***	.543***
・運動										1.000	.555***	.494***	.418***	.358***
・遊び											1.000	.471***	.313***	.448***
・就学												1.000	.635***	.492***
・就職													1.000	.517***
・対人関係														1.000

Kendallの順位相関係数

\*\*\* p<.001    \*\* p<.01    \* p<.05

- 2) 「困難性イメージ」と「喜び・生きがいイメージ」において、20～35歳グループでは、「困難性が高い」とイメージしている女性ほど「喜び・生きがいイメージ」が低い傾向が示唆されたが、36～50歳グループではその反対の傾向が示唆された（表B）。

表B-1「困難性イメージ」と「家族の絆が強くなる」の関連

	全体	20～35歳	36～50歳
・遊びの困難性	-.117n s	.257*	.048n s
Kendallの順位相関係数			* p<.05

表B-2「困難性イメージ」と「小さな成長に大きな喜びを感じる」の関連

	全体	20～35歳	36～50歳
・遊びの困難性	-.101n s	.272*	.050n s
Kendallの順位相関係数			* p<.05

表B-3「困難性イメージ」と「いつまでも「自分の子」という意識をもって育てられる」の関連

	全体	20～35歳	36～50歳
・遊びの困難性	-.073n s	-.124n s	.262*
・排泄の困難性	-.038n s	-.154n s	.234*
Kendallの順位相関係数			* p<.05

表B-4「困難性イメージ」と「障害をもつ子と共に生きるのも味のある人生だ」の関連

	全体	20～35歳	36～50歳
・遊びの困難性	-.128n s	-.296**	.063n s
Kendallの順位相関係数			** p<.01

## 追記

・本稿では一貫して、「障害を“もつ”子」という形容を用いているが、近年のノーマライゼーションの流れによればこの表現はのぞましい表現ではないという観点から、「障害“のある”子」という形容に転換する傾向にある。

・第1報では、前述したとおり実態報告に留めたが、第2報では先行研究のレビューをもとに特に「困難性イメージ」を想起させていると思われる背景要因を多変量解析（主に重回帰分析）によって推計し、考察・検討する。

## 謝辞

はじめに、ご多忙の中、本調査の回答にご協力いただきました住民の方々ならびにその住民調査の訪問・回収にご快諾頂きました当該自治会長の皆さまに厚く御礼申し上げます。また調査票の配布・回収を篤志的に引き受けて頂いた文教大学特殊教育専修の学生6名に感謝致します。さらに調査票の作成にあたって出生前診断等の医学的側面に関する助言を頂きました前文教大学教育学部 水谷徹教授に深謝致します。また問い合わせや調査票の回収のための窓口として尽力頂きました特殊教育研究室助手の刈谷雅、太田明の両氏に心より御礼申し上げます。

## 文 献

- ・京都ダウン症児を育てる親の会（1996）：『出生前診断』及び『母体血清によるスクリーニング検査』に関するアンケート調査（1996年6月実施）の結果報告書  
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/angle-3/Q19-29.html> 2004/08/23
- ・若山美津彦ら（2000）：知的障害養護学校における介護等体験に対する学生の意識調査、富山大学教育実践総合センター紀要NO.1、PP.45－50
- ・山口県教職員組合障害児教育部常任委員会（2003/07/14）：「特別支援教育」は障害児の教育を本当に充実させるのか？ <http://www1.ocn.ne.jp/~ymgtsu/tokubetusshien.html> 2005/01/25
- ・室淳子、石村貞夫（1999）：SPSSでやさしく学ぶ統計解析[第2版]、東京書籍